

花岡勘場指図

郷土史研究会

花岡勘場とは、都濃郡花岡宰判のことで、御代官所とも呼ばれておった。萩藩庁の出役所のこと。その跡地は花岡村の村役場の敷地となり、前庭には「しんぱく」の老樹が亭々と高く立ち、維新時の遺品砲筒が据えられてあった。役場の隣りあいに四恩幼稚園も開設された。この付近は花岡東町と呼ぶ。

勘場には、郡奉行に属す代官を首長として、都濃郡内の萩領の民政、勸農、徴租、治安等一切の要務を管掌したところ。そして、勘場には民間より大庄屋、同加勢、算用師、御惠米方、勘場守などが勤務した。これを勘場役人というが、代官随員の藩府側役人と区別して、勘場地下役人ともいった。

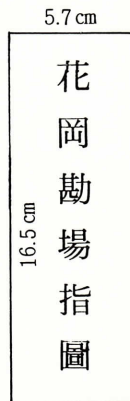
本図は、花岡の上原勝平の写したもので、添え書きにある天保九年に建替え、明治二年に解払、御茶屋跡へ更に建築とある。

上原家は、「綿屋」と屋号をいう富商であった。勝平なる人は、明治五年当時に庄屋役にあつたので、本図面を写したもので、その他「四冊書付」写本が同家にのこっている。庄屋

制度上の最後の庄屋であつたと思われる。

本図によって代官所の規模、間取り、構えなどを覗う好資料である。なお、上原家は、勝平、権藤、乙治、良太郎、現主正夫と続いた。

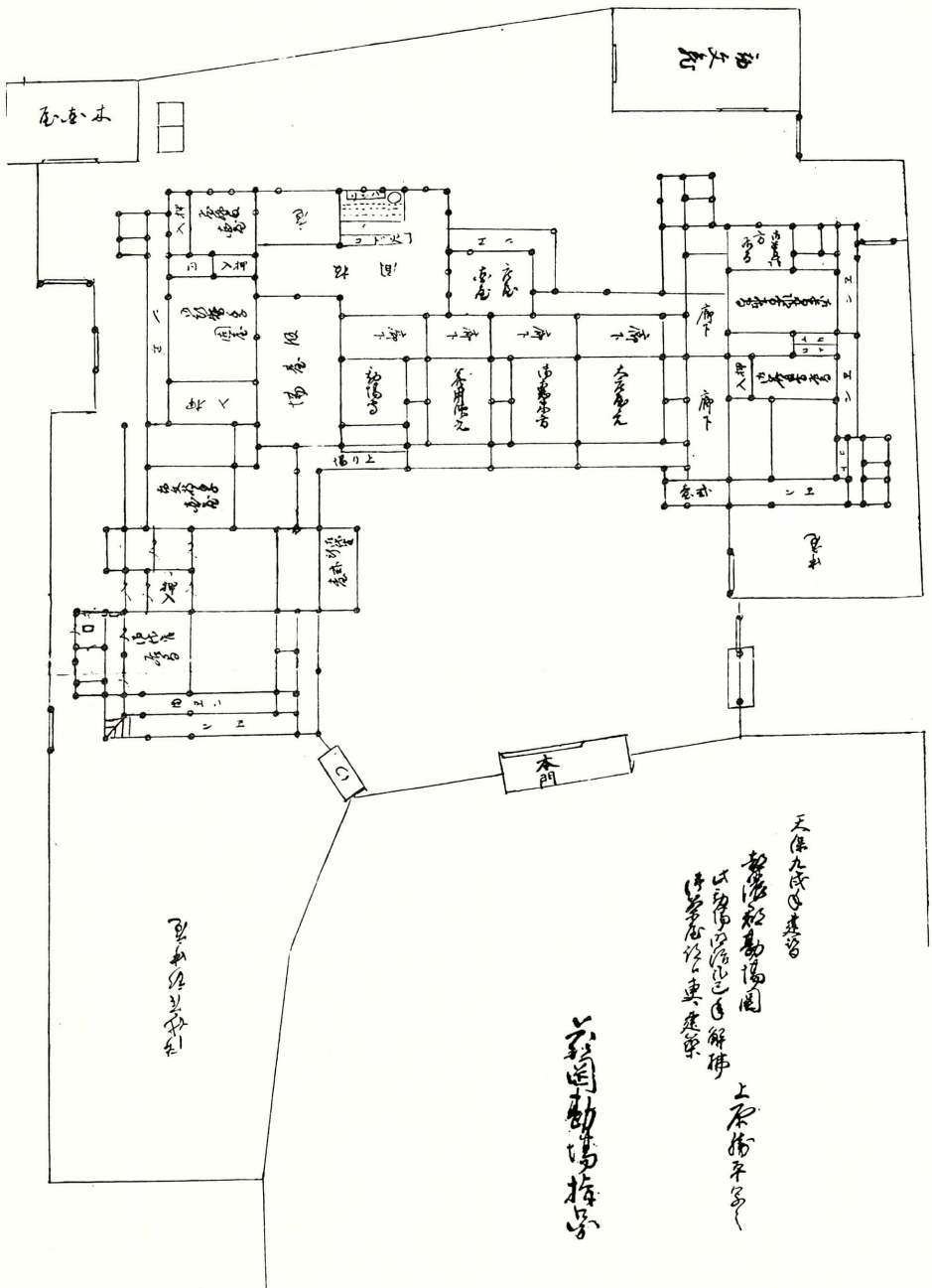
指図 縦49 cm 幅37 cm



四ツに折りたたみ
その上表の題字

図を披見すれば、正面に勘場三役。西の注文出に代官の居間、式台、中庭あり。東側に御算用方、その奥に御普請方居間、小中庭と小式台が付いている。

居間に対して庄屋・番手の詰所は固屋と呼んである。勘文蔵は、書類文書が保管してある。



天保九年之建築
 動陽梅泉校園圖
 以動陽梅泉之建築
 建築師 吳建榮
 上層 楊平

國立動陽梅泉

吳建榮建築師